日詰明男
竹の都市空間　ニューロ・アーキテクチャー

記録　橋口博幸（ワークショップ・アシスタント）

7 月 **15** 日（火）　**WS 1** 日目

現在休校となっている肝付町立 川上小学校の校庭に
ペンローズタイルの準周期性を徹底的に活用し、
五角形の区画を作図する「ニューロ・アーキテクチャー」。
できあがった区画の上に「竹の都市空間」を現出する。

講師の日詰明男さんは静岡県川根本町在住。
幾何構造を竹で制作している造形作家であり、
数学者であり、建築家・音楽家でもある。
竹の造形作品を世界中で発表されている。

日詰さんの鹿児島到着とあわせたように
梅雨も明け、熱い日差しの中で
ワークショップは開始された。

参加してくださった地元の方々と
二つのグループに分かれて作業開始。
一つはペンローズタイルの作図を行なうグループ。
日詰さんとオーガナイザーの JOU さん、そして
元小学校校長先生の濵田正義先生。
もう一つは材料となる竹の伐採グループ。
こちらは郵便局員で猪猟の名人である大平信孝さん、
造園家の鳥取隆さん、そして橋口。

作図グループは日詰さんと校庭の上に
五角形を作図していく。
方法はユークリッドの考案した方法。
古代の人々とまったく同じ方法で
幾何図形を描いていく。
円を描き、直線を引き、作図していく様は
あたかも大地の上に魔方陣を描くよう。
結果的に五角形を二つ重ねあわせた
正十角形が描かれた。

竹伐りははじめにマダケを伐採。
50 本ほどを校庭に運搬する。
竹は葉付きの状態で運搬。
これらの竹は作図が完了した後に

【凡例】
「＊＊」以降の文章は
ワークショップと
直接関係のない記録。
掲載写真は
7 月 21 日撮影のみ近藤萌。
その他は橋口博幸。

あらわれる五角形の区画の上で
ティピをつくり、装飾をおこなう材料となる。
続いてモウソウチクの伐採。
鹿児島のモウソウチクは太く長く重い。
これは日詰さんの音楽作品の一つである、
「フィボナッチ・ケチャック」で
使用する楽器となる。また、都市完成後に
日々行なわれる食事の際のご飯を炊いたり、
お箸や器、燃材にもなる。

初日は炎天下にも関わらず
お手伝いいただいた方々の尽力のおかげで
楽しい雰囲気で順調に作業を進めることができた。
最後に参加者全員で黄金比の音楽
「フィボナッチ・ケチャック」を体験。
モウソウチクに穴をあけ、切れ込みを入れる
だけで竹の打楽器が完成する。
これを竹に輪ゴムを巻いたバチで叩いて
音を奏でる。リズムは黄金比。
竹の美しい音色に会場の校庭が包まれた。
これを毎日練習して最終日での発表をめざす。
こうして初日のワークショップは終了。

＊＊
夜、鳥取隆さんにお招きいただき
自身で牛小屋を改装したという
山小屋に大平さんとお邪魔する。
2 階建ての山小屋は隠れ家、
秘密基地のようなたたずまいで
ワクワクする。外には農園もあり、鳥取さんの
夢と興味が詰まったつくりになっていた。
大平さんにいただいた猪肉をはじめ
魚や手つくりのお米などなど
囲炉裏を囲みながら焼酎とともにいただく。
(＊＊1,2,3)
楽しい時間はあっという間に過ぎ、
ラジオ収録に行かれていた JOU さんに
迎えにきてもらい、解散。

＊＊1　大平さんがしとめた猪肉の味噌炒め。

＊＊2　鳥取さんの山小屋 2 階。囲炉裏のある空間。

＊＊3　とれたてのトマト。美味。

7 月 **16** 日（水） **WS 2** 日目

昨日に引き続き日詰さんと濵田正義さんは
ペンローズタイルの作図に取り組む。（＊1,2,3,4,5）
炎天下での作業は急激に体力を消耗するが、
熱中している二人は中々休みも取らない。

途中、区画となる最小の五角形の
作図に必要なベニヤ板のジグを作成。
木工機械の施設が使用できなかったため、
カッターとジグソーで切断。（＊6,7,8）
このジグを 2 枚使用して五角形を作図。（＊9）

日詰さんが作図を続ける傍ら、
参加者（大平信孝さん、玉城斐美さん）は
区画の区割り用（境界線用）の
割り竹作りと穴あけ、竹釘つくりを行なった。
玉城さんは FM 肝付の取材で来られたが、
とても熱心にワークショップに参加されていた。
（＊10,11,12）

＊＊
日詰さんお手製のカレーで夕食。
内之浦から来られた田淵さんと JOU さんと飲みながら
夜を過ごす。田渕さんも一緒に宿泊。

＊1　　大地に作図する様子。

＊2　　水糸が大地の上で必然的に 1 点に交わる。

＊3　　炎天下での作業。

＊4　　「ニューロ・アーキテクチャー」図面。

＊5　ひたすら暑い。

＊6　五角形ジグの作成。慎重に切断する。

＊7　ジグソーで切断する。

＊8　カッターで切断。時間がかかる。

＊9　ベニヤのジグで五角形を作図。

＊10　FM 肝付リポーターの玉城さん。

＊11　インタビューに答える日詰さん。

＊12　インタビュー後、玉城さんが作業に参加。

7 月 **17** 日（木） **WS 3** 日目

午前中、昨日までと同様、日詰さんと濵田正義さんは
作図を続行。会場横の物産館「やまびこ館」館長で
いらっしゃる園田國治さんと観光協会スタッフの
田渕さんと橋口は竹伐りをスタート。

午後には田渕さんに作図を手伝っていただき、
会場の校庭には徐々に五角形の区画、
ペンローズタイルの全貌が明らかになってくる。（＊1,2,3）
竹はモウソウチク 6 本とコサンチク 50 本ほどが
校庭に運び込まれた。

＊＊
夜、大平さん宅にお招きいただき
猪肉のオンパレード。味噌炒め、スモーク、
炭火焼、そして刺身。（＊＊1）どれも超絶美味。
お手製の炭を使い、豪華な囲炉裏で
採れたてのピーナッツとともにいただく。
猪の胆嚢（＊＊2）、ススメバチをつけた焼酎（＊＊3）、
キワダという木の皮のお茶、などなど
珍味・貴重品の連続。
最後に合鴨農法でつくられたお米をいただいた。
これも本当に美味しい。素晴らしい夜。

＊1　　作図をする日詰さんと田淵さん

＊2　　あらわれてきた五角形の区画。

＊3　　作業は狂いのないよう慎重に。

＊＊1　囲炉裏の上に並ぶ猪肉料理の数々。

＊＊2　猪肉の胆嚢。乾燥させてある。

＊＊3　ススメバチが焼酎に漬けてある。

7月**18**日（金）　**WS 4**日目

午前中、作図制作の続き。
五角形の区画は 20 個を超える数となっている。
区画の境界となる割り竹と竹の釘制作を
大平信孝さんに手伝ってもらいながら作成。
大平さんは私物のダッチオーブンを
区画完成後の食事のために貸してくださった。（＊1,2）

11 時ころから地元のラジオ局、
FM 肝付の生放送に出演。（＊3,4,5,6）
「ニューロ・アーキテクチャー」の
背景説明から参加者募集の呼びかけ、
そして「フィボナッチ・ケチャック」の
生演奏を行ない放送した。
驚いたことにリポーターの玉城斐美さん、
局内のアナウンサーと話しながら
当時に、しかも自在に演奏を続けていたこと。
音楽の発明者である日詰さんも
舌を巻くほどだった。

午後には 30 本のスターケイジ用の
篠竹の伐採作業。
ワークショップに適した
素材を見つけるのは容易ではなく、
思った以上に難航した。
その間、狩猟の名人、大平さんが
会場で竹釘作りを手伝ってくださった。
大平さんは猪や鹿を鹿児島全土で
捕獲する猟師であり、蟹や魚の漁師、
そして合鴨農法の農家であり、
スズメバチの捕獲など実に多彩な
技術と経験をお持ちの方。
山の恩恵をここまで享受できている
方もそうそういないだろうと感じる。

夕方、各地で小学校の校長先生を努められた
濵田正義さんが加勢に来てくださり、
スターケイジのモデル一基を組み立て、
また、第 1 号の区画利用となる、
ティピを一つ組み立てた。（＊7,8,9,10,11）

大平さん、濵田さんは初日から
毎日手伝いに来てくださっている。
濱田さんは数学がご専門とのことで

＊1　　山の名人、大平信孝さん。

＊2　　貸してくださったダッチオーブン。

＊3　　風に揺れる「フィボナッチ風車」。

＊4　　ラジオ生出演の様子。この後、生演奏。

＊5　　ラジオ生出演の様子 2。この後、生演奏。

＊5　　ラジオ生出演の様子 3。この後、生演奏。

＊7　　伐採した篠竹を用いて日詰さんと
濵田さんとで組み上げた「スターケイジ」。

作業内容や概念に対する
理解が格段に早く、日詰さんも
初日から驚いていらっしゃった。

大平さんや濵田さんといった
地元の方々が作図作業、竹伐り、どれにも
積極的参加してくださりありがたい。
また、彼らの話は他では
聞けないものばかり。そして
その種々の手の技術も熟練の
ものばかりでとても勉強になる。
こういう方々とのふれ合い、
そして外部の人間としての眼差しで
彼ら地元の方を見るというのは
お互いが気づかない価値の交換とも
なっているのでは、と思う。

ワークショップ４日目にして
22 個の区画の完成、そして
1 基モデルとなるティピもできた。
日詰さん曰く「予定よりずっと早い」そう。
これもひとえに地元の方々の
協力なくしてはできないことと感じる。

＊＊
夜は残りのカレーといただいた猪肉で晩酌。

＊8　　ついに 1 基目のティピが立ち上がった。

＊9　　大平さんの尽力で竹の杭を打って固定。

＊10　大平さんの尽力で竹の杭を打って固定。

＊11　大平さんの尽力で竹の杭を打って固定。

7 月 **19** 日（土） **WS 5** 日目

最終的に 35 区画の完成を目指して
作図作業を継続。（＊1,2）
今日は少し曇りがちで作業がしやすい。

昼食のお弁当を届けてくれた、
物産館「やまびこ館」館長の薗田さんに
自在鉤の相談をしたら、
その場で即席ワークショップを
開講してくださった。
竹をナタで削り、みるみる間に
竹の自在鉤ができていく。
改めて地元の方々のもつ智慧と
技術に驚かされた。（＊3）

午後、南九州新聞の社長である
米永さんが取材に来てくださった。
熱心に日詰さんの説明を聞いている。
また、地元の子どもたちのボランティアグループが
ワークショップに参加した。
土地柄なのか皆、素直で純朴な顔つき、
雰囲気の子ばかりだった。すれていない。
黄金比の音楽「フィボナッチ・ケチャック」を
体験。はじめは慣れないリズムに
戸惑っていたが次第に音に没頭し、楽しんでいた。（＊4）

取材やワークショップで多少遅れたものの、
35 個の区画がほとんど完成。
竹釘の打ち込みを少々残すのみとなった。（＊5,6）

終了の 17 時頃、突如大雨となった。
雨の降り出すギリギリのところで作業を終了。

＊＊
実業家で近所で料理屋をオープンさせるという
西村さん宅へ、薗田さんのお誘いでお邪魔する。
jou さん、鍼灸師、料理人、日本舞踊家らと西村さん夫妻に
混じって参加。廃墟を自身で改築されたという
ログハウスの中で囲炉裏を囲みお話を伺う。
元々警備保障会社を立ち上げ、その後沖縄で
城壁改修、鹿児島市内での居酒屋経営など
多方面にわたる経験をもつ西村さんの
ギャンブルの話は興味深かった。

＊1　　五角形の位置を一つずつ割りだしていく。

＊2　　五角形の頂点に鋲を打ち込む。
　　この鋲の位置こそが日詰さんの作品の要。

＊3　　園田さんによる竹の自在鉤つくり講座。

＊4　　子どもたちの「フィボナッチ．ケチャック」体験。

＊5　「ニューロ・アーキテクチャー」全景。
35 個の区画がほぼできている。

＊6　大平信孝さんにいただいたスモモの
塩漬け。暑さ対策に効果絶大。

7 月 **20** 日（日）　**WS 6** 日目

本日と明日はイベント日。
防災訓練も同時開催とのことで
赤十字社から炊き出しに派遣されて
来ている方もいらっしゃり、
また、他集落からも多くの参加者がみられた。

30 分ほど時間をおしたものの
園田國治さん（やまびこ館館長）による
開会の言葉など挨拶があった後、
日詰さんのレクチャー開始。会場は体育館。
これまでの作品を中心に
黄金比や五角形について、そして、
校庭で制作中の「ニューロ・アーキテクチャー」の
概念について解説された。
時間のない中での駆け足のレクチャーとなって
しまったものの最新作のお披露目などもあり
充実した濃い内容のものとなった。
途中、「フィボナッチ・ケチャック」実演をはさみ、
最後、コスタリカでの滞在記を話されて終了。
（＊1,2,3,4）
コスタリカでの体験は、自然に包まれた
南国鹿児島の孕む可能性への
大きな期待を含んだメッセージに思えた。

レクチャー後、体育館で
「スターケイジ」ワークショップ。
伐採してきた 2m の篠竹をつかって
30 本の「スターケイジ」を組み立てる。
20 名近い参加者は熱心に
この不思議な造形をなんとか自分たちで
組み立てようと必死に取り組んでいた。
3 グループに分かれた参加者は
それぞれ自然にリーダーが形成されていた。（＊5,6,7,8,9）

「スターケイジ」ワークショップ終了後、
「フィボナッチ・ケチャック」の楽器つくり説明。（＊10）
比較的簡単な作業で丸竹が魅力的な音を奏でる
楽器になることに参加者たちは興味津々のようだった。

昼食は炊き出しによる鍋と保存食ご飯。
ご飯は災害用にどんな水でも炊け、
汚れた手でも食べられるよう工夫されたものだった。

＊1　　来場者を前にレクチャーをする日詰さん。

＊2　　来場者を前にレクチャーをする日詰さん。

＊3　　「ニューロ・アーキテクチャー」について説明。

＊4　　作図方法を板書で説明する。

＊5　　「スターケイジ」ワークショップ。

＊6　　「スターケイジ」ワークショップ。

＊7　　「スターケイジ」ワークショップ。

＊8　　「スターケイジ」ワークショップ。

午後は「ニューロ・アーキテクチャー」の
区画を分譲し、グループごとに制作。（＊11）
五角形の企画にあわせたティピを組み上げ、
グループによってはブランコをつくっていた。（＊12）
結果的に 4 基が組み立てられ、区画に命が吹き込まれ、
次第ににぎやかな雰囲気へとなっていった。
屋外でティピが組み立てられる中、
体育館では「フォボナッチ・ケチャック」の
練習をするグループもあった。（＊13）

ワークショップ終了後、
火をおこし、鍋を囲んで宴会。
地元の大平信孝さんの持ってきていただいた
猪肉や鴨肉を食べ、竹でご飯を焚き、
実に豊かな楽しい時間を過ごした。

＊11　「ニューロ・アーキテクチャー」全景。
五角形の各区画がどう活用されるのか。

＊12　ブランコをつくったグループ。楽しそう。

＊9　「スターケイジ」ワークショップ。

＊10　「フィボナッチ・ケチャック」楽器つくり。

＊13　「フィボナッチ・ケチャック」練習風景。

7 月 **21** 日（月） **WS 7** 日目

昨日に引き続きイベント日。
大勢の子どもたち、集落の
おばあちゃんたちが参加してくれた。
「フィボナッチ・ケチャック」の
楽器を使いはじまった即興音楽会では
唄あり踊りありの大にぎわい。
おばあちゃんたちの活用力はすごい。

やまびこ館館長の園田國治さんによる
竹箸つくりなどの竹細工ワークショップが
開催。子どもたちもおばあちゃんたちも
皆、思い思いのものを竹で制作。（＊1,2,3）

昼ご飯には参加者有志による竹ご飯。
参加者は皆、方法に一家言
持ってらっしゃるので
各自思う方法で炊くこととした。
それぞれの創意工夫はすべて
功を奏し、おいしいご飯が炊きあがった。
同時に羽釜でも炊いていたので
様々なご飯が出来上がり
とても充実した昼食となった。（＊4,5,6,7,8）

「スターケイジ」ワークショップは
おばあちゃんたちに盛況だったものの、
縛りのテクニックを伝えようとすると
参加者たちがいつの間にかいなくなっていたらしい。
最終的に縛りをマスターした参加者は
たった一人だったという。
（＊9,10,11,12,13,14）

つくりかけの竹のジャングルジムは
子どもたちの格好の遊び場となっていた。
安全面ばかり考慮された最近の
遊具とは全く異なる点が子どもたちを
夢中にさせたのかもしれない。（＊15）

夜は地元の方々と打ち上げ的な
飲み会が催された。
猪肉や刺身が振る舞われる中、
新たに日詰さんの焚いた
竹ご飯も加わり夜がふけるまで宴会が続いた。
日曜日と祝日のこの二日間、

＊1　園田さんによる竹のワークショップ。
子どもたちは箸を、大人たちはしゃもじを作成。

＊2　訪れた子どもたち。

＊2　訪れた子どもたち。

＊4　竹のしゃもじで柿の葉によそう。

＊5　柿の葉に盛られたご飯。

＊6　楽しい食事の時間。

＊7　物産館「やまびこ館」の煮しめの
炊き出しとご飯と。

＊8　竹で炊いたご飯。グループごとに趣向を
凝らしたご飯が炊きあがった。

＊9　竹ヒゴで「スターケイジ」ワークショップ。

＊10　竹ヒゴで「スターケイジ」ワークショップ。

＊11　竹ヒゴで「スターケイジ」ワークショップ。

多くの方々にご参加き
ようやく都市が活用され始めてきた。

深夜、ほとんどの参加者が帰宅した後、
大平さんと園田さんの議論が白熱。
傍らでずっとその様子を見ていた
日詰さんはここまで真剣に議論しあうのは
中々見ることがない。土地柄なのかもしれないが
すごいことだ、と感心されていた様子だった。
結局、議論は深夜 2:00 頃まで続いていた。

＊12　竹ヒゴで「スターケイジ」ワークショップ。

＊13　子どもも大人も「スターケイジ」に興味津々。

＊14　子どもも大人も「スターケイジ」に興味津々。

＊15　竹のジャングルジムで遊ぶ子どもたち。

＊16　竹のジャングルジムで遊ぶ子どもたち。

7 月 **22** 日（火） **WS 8** 日目

昨日までの疲れが残りからだが重い。
時折、小雨も降るなどあり
少しのんびりとした制作作業。

午前中、きもつき情報局の中久保さん訪問。
その際、「おねっこ」という
地元の鬼火焚きの紹介をしてくれる。
地域に根ざした竹の利用と造形。
これほど美しい活用法もない気がする。
http://kimotsuki.info/pages/know/culture/post-1097.html
http://kimotsuki.info/pages/know/culture/post-1103.html

昨日のイベントで区画が少し埋まった
会場を高台から眺める。（＊1）
全部で 35 個の区画。
どうか有効活用して欲しいと願う。

突如思い立ったかのように
日詰さんが篠竹で正二十面体のオブジェを制作。
「遊び」でつくったとおっしゃるが
輪ゴムの仮止めであっという間に完成。（＊2,3）
実に自在に多面体をかたちにする様は流石。

＊＊
二宮さん合流。ウチの家族は
この葉の鼓膜切開のため断念。
二宮さんを迎えにいった後、
JOU さんの案内で波見集落、
轟の滝遊び、志布志湾での夕日、
古墳の上にそびえる大楠、
高山温泉ドーム、役場近く「海侍」での
宴会、と JOU さんに接待いただいた。

＊1　　会場を俯瞰した様子。賑わいが出てきた。

＊2　　正二十面体オブジェ制作の様子。

＊3　　正二十面体オブジェ制作の様子。

7 月 **23** 日（水） **WS 9** 日目

ワークショップも残すところあと 3 日。
最終日 26 日にはコンサートを実施したいところだが
連日参加して「フィボナッチ・ケチャック」を
練習する参加者が未だいないのが頭を悩ませるところ。
また、火の使用も 20,21 日のみ許可され、
それ以降、火も炊けていないのも状況として厳しい。
日詰さん曰く「仏をつくって魂を入れていない」状態が
続いてしまっている。

昨日に続き参加者がほとんどいない。
強風で倒れたティピの修復、
ジャングルジム制作など作業を継続。

＊＊
近藤さん、帰京。午前中に送り。
薗田さんがブヨにかまれたあと用に
ドクダミをあぶったものをくださった。
これが、効く。膿を吸い出してくれた。
夜は大平さん夫妻をお招きして
二宮さんお手製のカレー、ゴーヤのサラダ 2 種、
きんぴらごぼう、かぼちゃのヨーグルトあえなど
とともに大平さん特性の猪肉の塩竈、
猪肉の味噌付け、落花生、などをいただく。
（＊＊1,2,3,4,5）
大平さんの猟犬訓練所の話など
他では聞けない山での暮らしの数々に
驚きばかり。楽しい夜。

＊＊1　猪肉を 6kg の塩に浸け、50 分火にかけたもの。

＊＊2　ハンマーで叩き割る。

＊＊3　ハンマーで叩き割る。

＊＊4　塩気を拭き取る。

＊＊5　薄く切り分け完成。猪の塩竈。

7月**24**日（木）　**WS 10**日目

日詰さんはおもむろに竹の櫓・滑り台を作成。
一人で組み上げてしまった。（＊1,2,3,4）
参加者が今日もいないのかな、と思っていると
午後に会場の川上小学校卒業の、坂元隆一さんが参加。
みるみる間に作品を二個つくりあげた。
このような積極的参加者は初めて。
とても嬉しい出来事だった。

竹のツインジャングルジムもひとまず完成。
子どもたちが遊んでくれると嬉しい。
少し危険な竹の五角形ジャングルジム。

いよいよ明日で制作は終了。
この都市空間がどうにか今後
活用されていくことを願うばかり。（＊5,6,7）

＊＊
夕方、日詰さん、JOU さんのラジオ収録へ同行。
収録後、遊びにきていた坂元くんも一緒に
岸良の海岸へ。美しい海で夕暮れを過ごす。（＊＊1,2,3）
海をあとにして湯之谷温泉へ。
泉質が気持ちいい。
温泉後、家に戻り皆でご飯。

＊1　　会場の様子。今後どう変貌を遂げるのか楽しみ。

＊2　　日詰さんが一人で組み上げた竹の櫓・滑り台。

＊3　　日詰さんが一人で組み上げた竹の櫓・滑り台。

＊4　　五角形の魔方陣。

＊5　　ゴムの仮止めからシュロ縄で縛り仕上げる。

＊6　　ゴムの仮止めからシュロ縄で縛り仕上げる。

＊7　　区画の一つにおかれた「スターケイジ」。

**1　岸良海岸にて。

**1　岸良海岸にて。

**1　岸良海岸にて。

7 月 **25** 日（金）　**WS 11** 日目

ワークショップ作業日最終日。
午前中、全体の仕上げを行なう。
FM 肝付局の玉城さんが「スターケイジ」を
教わりに訪問。一緒に昼食を食べる。
仕事の枠をこえて熱心に、
関心を持ってくれているのが嬉しい。

昼食後、買い出し。
今夜の予行演習という名の前夜祭と
明日、最終日の鍋用食材を購入。
戻ると昨日に引き続き作業に来られた
地元の坂元隆一さんと緑の協力隊員で
岸良に滞在中の田中綾音さんがいらっしゃっていた。
（＊1,2,3,4）
ほぼ同じ年の若い二人は
ツインジャングルジムに座りながら
「田舎に生まれ都会で暮らす若者」と
「都会に生まれ田舎で暮らす若者」との
意見交換を行なっていた。

今夜がワークショップとしては最後の夜ということで
彩りを添えるために大平さんが急遽、
竹灯籠つくりを買って出てくれることに。
時間がない中での急ぎの作業ではあったが
全区画（35 個）分以上、用意することができた。
（＊5,6）

夕方から予行演習という名目で
（公式には火を焚く許可がおりていないため）
火を焚き、鍋の準備をすすめる。
明日は午後 3 時には閉会となるため、
実質的には最後の夜。
地元の方々から新鮮なお刺身、
トマトやラッキョウ、筍など授受の
差し入れをいただき一挙に豪華な鍋に。
（＊7.8.9）

多くの参加者で賑わった。
そのほとんどが都会での生活経験あり、
もしくは都会からやってきている人ばかり。
竹でご飯を炊き、日本酒や焼酎を火で
燗し、鍋を皆で食べ語り合う。
大隅半島の川上地区という山間の

小学校校庭で不思議な集いが実現した。
最後の夜に日詰さんの作品である
都市空間が極めて効果的に活用された。

大平さんの協力のもと制作された
竹の灯籠が各区画に灯されると、
夜空にきらめく星空と美しい呼応を
見せていた。天の星々と地の星々。

尾を引く大きな流れ星を眺め、
静かに語り合った夜は
深夜 1:30 頃まで続いた。

そして今日は初の宿泊者も登場。
鹿屋の地域おこし協力隊員、
繁昌孝充さんが区画の一つに
テントを張り翌朝まで宿泊することに。
その心意気に、そして繁昌さんの
人柄に対して日詰さんより「ニューロ・
アーキテクチャー共和国　川上小学校」の
初代大統領「ドン・ハンジョー」の称号と
区画の永久譲渡権が言い渡された。
区画が完成して 1 週間。
いよいよ本来の趣旨である、
都市のモデルとして機能してきている。

＊1　　田中さんは身軽。ジャングルジムで遊ぶ様子。

＊2　　日詰さんの作品によじ登る田中さん。

＊2　　作品を攻略するための指示をだす日詰さん。

＊4　　坂元さんと田中さん。若い二人の会話。

＊5　　竹灯籠つくり。

＊5　　竹灯籠つくり。

＊7　　最後の夜の鍋。持ち寄り食材で豪華になっていく。

＊8　　最後の夜の鍋。持ち寄り食材で豪華になっていく。

＊9　　岸良より届けられた魚をさばく大平さん。

7 月 **26** 日（土） **WS 12** 日目

ワークショップ最終日。
日詰さんは朝から炊き出しの準備。（＊1,2）
最後の食事であるため気合いもはいる。
豚のナンコツと牛すじでダシをとり
種々の新鮮な野菜が投入される。（＊3,4）
同時に、竹で焚くご飯の準備。
すべて日詰さん自身の手によるおもてなし料理。
思えば現出された空間そのものが、
区画つくりから始まり、音つくり、
建物つくり、そして食空間つくり、
すべてが日詰さんの
川上地区の人々、参加者の
人々へのおもてなしといえる。
（＊5,6,7,8,9,10,11,12,13）

昨夜から宿泊している「大統領」繁昌孝充さん、
2 回目の参加である緑の協力隊員の田中綾音さん、
連日参加の川上出身の坂元隆一さんらは
区画の上で作業を続けていた。

JOU さんのお手製オムレツなども振る舞われ、
鍋と竹のご飯を参加者全員でいただいた。
（＊14,15,16,17,18,19,20,21,22,23）

昼食後、思い思いに区画の中でゆっくりしたり、
体育館では竹ヒゴによるスターケイジの
ワークショップが開催された。（＊24）

14 時から「フィボナッチ・ケチャック」の
即席パフォーマンス演奏会。
演奏者のチームが結成されたのは
なんと当日の午前中。
メンバーは日詰さん、パートナーの二宮さん、
坂元さん、繁昌さん、田中さん、橋口の 6 名。

会場の一角から竹のスティックを各自の
黄金比のリズムに合わせて叩きながら歩いて登場。
演奏者たちはそれぞれブラウン運動のように
会場を歩きまわり、区画にあるあらゆるものを
打ち鳴らしながら行進する。

しばらくするとその運動は
「フィボナッチ・ケチャック」の楽器の

＊1　　野菜を切り鍋の準備をする日詰さん。

＊2　　野菜を切り鍋の準備をする日詰さん。

＊3　　具材を投入していく。

＊4　　美味しそうな鍋になってきた。

＊5　　全景。各自思い思いの区画の利用をしている。

＊6　　小学校上の畑に向かう。

＊7　　会場入口。

＊8　　区画利用の例。

＊9　　区画利用の例。

＊10　　区画利用の例。

＊11　　区画利用の例。

ある場所へと落ち着いていく。
全員が着席するとしばしの静寂。
日詰さんが楽器を叩きはじめると
それぞれの黄金比のリズムが加わり
シンプルなリズムの組み合わせで
複雑なアンサンブルが構成される。

はじめ基本のパターンをリズム通り奏でるものの
次第に「遊び」の演奏が出てくる。
各自が思い思いに演奏を楽しむ。
途中、竹のスティックの演奏が止むと、
今度は手を叩いてリズムを刻みだす。
それもしばらくするとまた竹を叩く従来の
奏法に戻り演奏が続けられる。
そして徐々に音が小さくなっていき
無音へと収束し演奏会は終了する。

演奏会終了後、来場者から
参加希望の声があがり、
「フィボナッチ・ケチャック」の
ワークショップがはじまる。
子どもたちも含めた幅広い年齢層の
参加するワークショップとなった。
(＊25,26,27)

15 時過ぎ頃、地元の片野集落の
グランドゴルフのメンバーが会場を訪問。
日詰さんの解説を聞きながら
各区画を歩いて回る。
(＊28,29,30)

集落の代表による謝辞の挨拶があり、
ついで日詰さんから作品に対する想いと
作品活用への願いが述べられた。
すると地元の風習である「おねっこ」と
呼ばれる「鬼火焚き」をここで行なったら
どうかという提案が起こるなど、
活発な意見交換が行なわれた。

最後に会場の後片付けを有志とともに
行い、ワークショップは終了。
日詰さんの測量・作図した五角形の区画、
「ニューロ・アーキテクチャー」は
来月 8 月いっぱいまで保存・展示される予定。

＊12　区画利用の例。

＊13　区画利用の例。

＊14　最後の食事の準備。

＊15　JOU さん手つくりのオムライス。

＊16　日詰さん特製の鍋完成。

＊17　日詰さんによる竹ご飯。綺麗に炊けている。

＊18　日詰さんによる竹ご飯。綺麗に炊けている。

＊19　日詰さんによる竹ご飯。綺麗に炊けている。

＊20　鍋と竹のお玉。

＊21　会場での最後の食事。豪華。

＊22　会場での最後の食事。豪華。

＊23　カエルのすむ水車。少量の水でもよく回る。

これから行なわれる種々のイベントや
地元の方々による活用でどんどん
変貌を遂げていって欲しいと願うばかり。
1ヶ月後の会場の姿が楽しみ。

最後にこの機会をくださった、
オーガナイザーであり自身も
コンテンポラリーダンサーとして活躍する、
JOU さんに謝意を記したい。

＊24　「スターケイジ」ワークショップ。

＊25　「フィボナッチ・ケチャック」ワークショップ。

＊26　「フィボナッチ・ケチャック」ワークショップ。

＊27　「フィボナッチ・ケチャック」ワークショップ。

＊28　地元の集落の方々がおいでになり見学会。

＊29　地元の集落の方々がおいでになり見学会。

＊30　地元の集落の方々がおいでになり見学会。